

佐賀県教育センター 所 報

No.60

も く じ

○ 巻頭言「森を見て、木を見る」	1
○ 指導のチェックポイント「小学校道徳」	2
○ 指導のチェックポイント「中学校英語」	4
○ 指導のチェックポイント「高等学校家庭」	6
○ 受講者の声と講座風景	8
○ 教育相談Q & A「自立へのスタートを大切に」	10
○ 平成4年度長期研修生紹介	11
○ 指導資料ガイド	12

巻 頭 言

森を見て、木を見る

佐賀県教育センター 次長 迎

巖



本教育センターでは、2～3日間で行われる国語や算数・数学、道徳、特別活動などの教科等を中心とした短期研修講座や、10日から20日間の講座を幾日かに分けて行うパソコンや教育相談などのより専門的な分野を中心とした断続研修講座をはじめ、初任者研修、長期研修生の研修なども計画的に実施している。

本年、開講のあいさつなどで、多くの講座等に出席させていただいて、特に感心させられているのは、先生方の意欲的な研修への取り組みの姿である。

新しい教育課程が、小学校では本年度からすでに実施に移され、中学校では来年度から完全実施、高等学校では平成6年度から、学年進行で実施の運びになっていることも、先生方の各講座への関心が高まっている一因であると思う。

小学校の生活科、中学校の選択履修の幅の拡大、高等学校の社会科の再編成など、この度、大きく変わった教科等をはじめとして、各学校段階の各教科・科目等の編成等については、教育課程の基準に基づき、

各学校で、主体性を一層発揮され、責任をもって教育課程の編成がなされなければならない。

各学校においても、各教科等の指導計画等に当たっては、各学校の創意工夫や調和の取れた具体的なものであることや、各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的発展的な指導ができるようにすること、また、教材等の精選を図り、効果的な指導ができることをねらって、熱心に研究や研修がなされている。

そこで留意しなければならないことは、例えば、各教科等を「木」だとすると、教育課程全体は「森」ということになる。

「木」について、研究や研修が進めば進むほど、「森」については、つい見すごしてしまいがちである。

「木を見て、森を見ない。」ことにならないように、21世紀に向けての今回の新教育課程の基準の全体（総則）を認識し、読み通し、理解し、改善の大きな4つのねらいを常に踏まえながら新しい教育の推進に当たらなければならないと考える。

指導のチェックポイント・小学校道徳

これからの道徳教育の在り方

～指導計画の改善と道徳の時間の充実～

佐賀県教育センター 所員 黒木正孝



はじめに

児童の主体性を育成し、自己実現が図れるような資質を育てるといった新しい学力観に基づいた指導が強く叫ばれている今日である。

こうした新しい学力観にたって主体的な生き方を育てていくことがこれからの道徳教育の目指すところであろう。

学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うことは言うまでもない。また、道徳教育の要として道徳の時間の重要性は各教師の認めるところであろう。

教育活動は、Plan・Do・Seeという手順で展開されるが、道徳教育において学習指導要領の「第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い」では、特に指導計画の必要性和道徳の時間の工夫等が強調された。

そこで、指導計画の改善と道徳の時間の充実について考えてみたい。

1 道徳教育の全体計画の改善

「道徳教育の全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画である。」(『小学校指導書 道徳編』平成元年3月 文部省)と述べられている。

各学校には、すでに全体計画が整えられ、全教師の共通理解のもとに、日々の教育活動の中で意識され生きて働く計画になっていると思うが、改善の視点として、次の点を考慮したい。

○抽象的用語の使用をできるだけ避け、わかりやすい具体的な方針や方法を記し、学校の個性がみえるようにする。

○チャート化(いくつかの枠を作っている)の場合それぞれの枠を線で結ぶだけでなく、結んだ線の意味付け(発展とか補充とか)をして明記する。

○どの教育活動の場において具体的にどのようなことを実施するか検討する。

○既成のものにとらわれることなく、視覚的に見やすい構成をする。(例えば、イラスト的なもの)

各学校において、実践(Do)し、多様な観点から検討を加え、評価(See)していくことが大切であろう。

なお、全体計画の学級版ともいえる学級における指導計画があるが、それも全体計画の改善の視点で見直していく必要がある。

2 道徳の時間の年間指導計画の改善

「年間指導計画は、道徳の時間の指導が道徳教育の全体計画に基づき、児童の発達に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画である。」(『小学校指導書 道徳編』平成元年3月 文部省)と述べられている。

県内のいくつかの学校の年間指導計画をみても、形式や記述内容は様々である。改善の視点として、次の点を考慮したい。

○道徳の内容が四つの視点で再構成された趣旨を生かすようにする。

○同一学年で、同一内容項目を数回取り上げて指導する場合、ねらいは発展性を考えて設定する。

○資料の選定及び収集や開発を全教師の協力のもとに行う。

○展開の大要及び指導の方法は、固定化形式化しないようにする。

○授業実践後の反省や評価欄を設ける。

3 道徳の時間の充実

(1) 資料の内容を吟味してみよう

資料の選定は、年間指導計画の改善とも深い関係がある。ここでは、読み物資料を選定する場合のことを考えてみたい。

次に示した条件や状況が一つの資料に内在していることが選定の基本となろう。

①人間的な弱さや迷いが描かれている。

②道徳的価値実現に向かっていく姿が描かれている。

③道徳的価値実現をした姿が描かれている。

【例】「まどガラスと魚」(正直・誠実)

①よその家のまどガラスを割って、謝ろうと思うが夢中で逃げる千一郎。

②ガラスを割ったことが気になって、その家の前を通る千一郎。そして、魚をさらった猫の飼い主であるお姉さんがお詫びに来て、はっとさせられる千一郎。

③お母さんに、ガラスを割ったことを話し、謝りに行く千一郎。

このような資料は、「はしのうえのおおかみ」(思いやり、親切)「ぼくは後悔しない」(公正・公平、正義)など全国的によく活用される資料にもいえることである。

(2) 導入段階を工夫してみよう

導入は、ねらいに対する興味関心を高めることと資料に対する興味関心を高めることの2つに大別できよう。

その方法として、よく生活経験の想起をさせる場合があるが、いつもこの方法では児童は「また、思い出すのか」となってしまう。

次の例のような方法も考えられよう。

【例】「まどガラスと魚」(正直・誠実)

買い物に行って、おつりを間違えてもらったときの行動について考えさせる。

○350円の筆箱を買って、500円玉を出したとき、おつりは150円だが

①店の人が、あわてて100円玉と10円玉を渡したときどうしますか。

②店の人が、あわてて100円玉を2つ渡したときどうしますか。

この①・②のときの対応の仕方を考えさせることによって、日常の行動の仕方(正直さ)が一人一人違うことをとらえ

させることができると同時にねらいに対する興味関心を持たせることもできる。

このように、ちょっとしたアイデアで児童は、授業に対する興味関心をもつことができると思われる。

(3) 発問をよく吟味してみよう

道徳の時間の発問といった場合、一般的に基本発問と中心発問があり、基本発問の中で授業のねらいを達成するのに最も重要な発問を中心発問としている。中心発問は資料のある場面について児童が登場人物に託して本心を語るように工夫されることが多い。

次の例で、中心発問について考えてみたい。

【例】「まどガラスと魚」(正直・誠実)

①千一郎は、割れたガラスまどの貼紙を見たとき、どんなことを考えただろう。

②お姉さんが詫びて魚を置いていった後、千一郎は、どんなことを考えただろう。

①と②のどちらが中心発問といえるだろうか。論議の分れるところである。なぜ、そのような論議が出てくるか。それは、価値観の類型化という手法が背景にあると考えられる。価値観の類型化の手法を取り入れるとすれば、①が中心発問となろう。要は児童一人一人が、ねらいとする道徳的価値観を追求・把握し、内面的な自覚を深めていく発問構成が大切であろう。

(4) 指導方法を多様に考えてみよう。

いつもテレビ視聴をして話し合う。いつも読み物資料を読んで感想を書く。いつも役割演技をする。これでは、児童は「またか」となってしまう。それぞれの指導方法の効果を考えて活用するようにしたい。児童が、「今日は、どんなこととして考えていくのかな」と待ちわびる時間でありたい。

おわりに

道徳教育は道徳の時間の充実だけで十分ではない。学級経営の在り方、家庭や地域社会との相互連携の在り方など児童をとりまく全ての教育的環境を考慮し取り組んでいくことが大切である。また、今後は豊かな道徳的体験の場と機会を積極的に設定することや道徳の時間において他の教育活動との関連を図った指導の工夫が望まれる。

正 誤 表

頁	誤	正
4 左30行	inprove	improve
5 右26行	comopolitan	cosmopolitan

指導のチェックポイント・中学校英語

"SILENCE IS NOT GOLDEN"
IN ENGLISH CLASSES

～ An idea about the positive attitudes toward communicating ～

佐賀県教育センター 所員 朝長省吾



As the Course of Study indicates, teaching English aims to help the students develop their synthetical abilities, writing, reading, speaking, and listening abilities. But according to the revised Course of Study, "Communicative Competence" is a new addition and is emphasized as one of the most important skills. This is caused by the fact that we need to be able to acquire information from all over the world with ease in order to facilitate internationalization.

But how can we help the student improve their communicative competence?

When I look back upon the past ten years, the way of teaching English has been gradually changing from an emphasis on grammatical teaching to communicative teaching. It is not too much to say that the JET(Japan Exchange and Teaching) program has contributed to the communicative way of teaching. Thanks to the program, we JET(Japanese Teachers of English) and the students have been able to speak or listen to English often. And we have been able to learn about the differences in thinking, living, cultures, and so on. But I wonder whether we have tried to improve our English Teaching and to help the students improve their communicative competence or not. I would like to say something about the challenges of evaluating the students' positive attitudes toward communicating and introducing group work in communicative English classes.

As you know, it is very effective for

the students to have more opportunities to speak or listen to English in a small class or in a small group. They can exchange ideas and information with each other. The students can also check their English abilities directly and instantly by using friends and themselves. These activities help them to improve positive attitudes toward communicating English.

There is a proverb, "Practice makes perfect." The more the students have the opportunities to speak aloud or listen to English, the better the students become at using English. If they study in a large class, they lose such opportunities. It means that they seldom have the opportunities to use or practice English in the classroom.

In other subjects, they sit and listen in almost all cases. But in an English class, they need to speak and listen as often as possible. The students need to know that an English lesson is different from the others. Both the teachers and the students have to make a drastic change. The big challenge in a communicative English class is:

"To make the classroom less stressful and encourage the students to participate."

In the case where the class becomes monotonous, the students feel bored. So it is a significant and an effective way of teaching to make the class smaller or to have the students study in pairs or groups.

Next, when the students begin to speak, then getting the class relaxed has worked and pair or group work can be easily introduced. Here are some points to be

taken into consideration when introducing "information gap-activities" in pair work.

- ① pairing should not be rigid
- ② instructions should be clear.
- ③ information gaps should be new and interesting
- ④ students should be free to move from their seats
- ⑤ the time-length of group activities should be announced beforehand, etc...

As for the evaluation of students' positive attitudes toward communicating (PATC), there is a tentative check list.

The points to be checked are as follows;

SELF-EVALUATION CHECK LIST	GRADE()	CLASS()	NAME()	POINTS TO CHECK	SCORE
POSITIVE ATTITUDES TOWARD COMMUNICATING					A B C
					A B C
					A B C
					A B C
					A B C
EXPRESSIVE SKILLS					A B C
					A B C
					A B C
					A B C
					A B C
KNOWLEDGE & UNDERSTANDING OF LANGUAGE AND CULTURE					A B C
					A B C
					A B C
					A B C

A: think too much B: think a little C: think little

自己評価カード	年 級	名 前	点	SCORE
コミュニケーションへの積極性			①活動にすんで参加しようとしたか。	A B C
			②すんで英語で表現しようとしたか。	A B C
			③分からない点についてすんで聞こうとしたか。	A B C
			④相手の目を見て、ジェスチャーを使用したり感情を込めて話そうとしたか。	A B C
			⑤教科書や辞書などを調べて、発見的に課題に取り組みようとしたか。	A B C
表現力(話す力)			⑥相手に聞こえる声で話すことができたか。	A B C
			⑦あいさつや質問に元来よく答えられたか。	A B C
			⑧先生や友達の話が理解でき、態度や言葉で応えられたか。	A B C
			⑨日本語を使わないで、なるべく英語で話せたか。	A B C
			⑩語句を使って大事なことを落とさないで話そうとしたか。	A B C
言語や文化についての知識・理解			⑪自分の国や外国の生活が分かったか。	A B C
			⑫ 風物	A B C
			⑬ 言葉	A B C

A: 大変そう思う B: 少しそう思う C: あまりそう思わない

This kind of self-evaluation check list has not been used often or considered very much before. But from next year, the attitudes indicated above in the "SELF-EVALUATION CHECK LIST" (①～⑤), for example, will be used for both

evaluation itself and motivating the students' PATC besides 4 language skills of English.

And if both the JTEs and ALTs (Assistant Language Teachers) use this check list for the same students, the problems come to light in this evaluation will gradually disappear and eventually objective test will be made.

We know that it is very difficult to evaluate the potential abilities such as PATC and knowledge & understanding of language and culture. But anyway, now is the time to make previous arrangements with fellow teachers for the matter.

Lastly, communicative competence, especially oral and aural skills, are now important English language abilities.

Using group work in the classroom can be very useful to improve such skills. But again, what we have to before introducing communicative teaching is to make a drastic change this occasion.

The goal of English teaching is not to improve scores on tests, but to educate the students to become a comopolitan, who I believe will then be able to act as go-betweens in the future by using their communicative English language skills.



中学校英語科(表現力)講座風景

指導のチェックポイント・高等学校家庭

新しい家庭科をめざした学習指導

～新学習指導要領の求めるもの～

佐賀県教育センター 所員 金丸 千壽子



1 はじめに

文部省は、男女平等、家庭内の教育力の低下などの実態を背景に、平成6年度から実施される新学習指導要領で、これまで女子生徒だけだった家庭科を、男女のすべての生徒が履修する必修科目として新設するよう改訂した。改善の内容は、生徒の多様な能力、適正、興味・関心等に応じることができるようになるため、「家庭一般」のほかに新しい科目として「生活技術」、「生活一般」を設け、このうちから1科目4単位を選択履修させることである。生活的な自立をめざす新しい家庭科では、家庭を取り巻く環境の変化に主体的に対応し、生活に必要な知識と技術を身につけ、親となるための自覚を高め、家庭生活の充実向上を図る実践的な態度を育てることが期待されている。

2 家庭科の特質

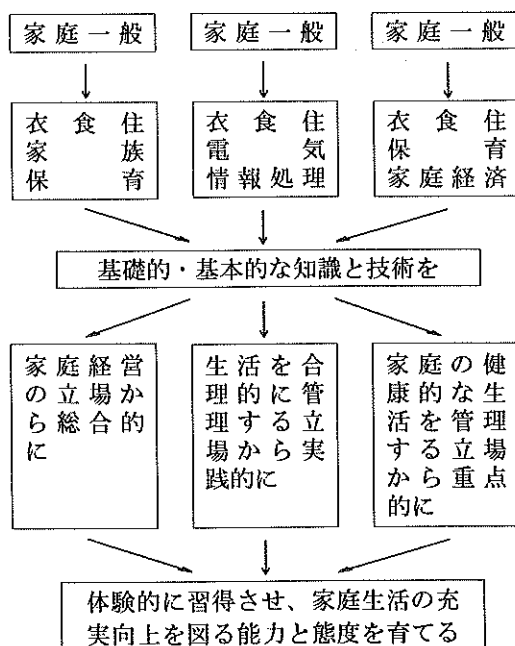
家庭科は、よりよい家庭生活を想像していくために男女が協力して築いていく基盤として必要な知識と技術を習得し、更にそれらを活用して実践的な態度を育てることが大切で、目標は①～④である。

- ① 家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得。
- ② 家庭生活の意義の理解。
- ③ 家庭生活に必要な能力の育成。
- ④ 主体的・実践的な態度の育成。

高等学校の家庭科には、普通教育としての家庭科と職業教育としての家庭科の二面性がある。

人間としてよりよく生きるための生活自立学として、また21世紀を展望して、家庭生活に関する各分野の職業で関連能力を発揮することのできる職業人の育成である。

3 家庭科の三科目のねらいと内容及び取り扱い方



4 家庭科の学習指導

家庭科の学習指導は、教科の性質をふまえて、家庭科の目標の達成をめざして進める必要がある。

- (1) 実践的・体験的な活動を中心とした学習指導（実験実習の充実）

家庭科で学習したことを活用して各自の家庭生活や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てることが大切である。

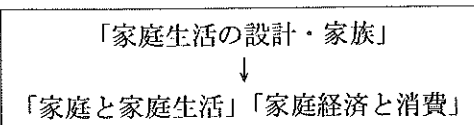
一方、今日の高校生は、生活体験の不足や人間関係の希薄化などで生活に必要な基礎的、基本的な知識と技術が身につけていない状況である。この様な高校生に対して、事例や題材を通して、実践的・体験的に学習させることが必要である。

新学習指導要領においても、従来通り、「家庭に関する科目に配当する総授業時数のうち原則として10分の5以上を実験実習に配当すること」が示されている。

このことは実験実習の充実を図ることを強調しているのである。

実験実習には、調査研究、観察、現場での学習などの内容がふくまれる。

例えば今回の改訂において



と改められたが、講義中心に偏りがちにならぬように、できるだけ生徒の身近な問題として取り扱うことが必要である。

- (2) 生徒の実態に応じた学習指導（個に応じた指導）

家庭科は、生活事象を対象とした学習であり、学習内容が実際の生活の場で活用できるようにすることを目指している。

したがって、生徒の住んでいる地域や生活の実態を把握しておくことが必要である。また生徒一人一人の学習経験や興味・関心が異なり、このような生徒の実態にも対応する必要がある。特に今回の学習指導要領の改訂より、中学校技術・家庭科で、すべての生徒が学習する「木材加工」「電気」「家庭生活」「食物」の4領域と生徒の興味・関心等に応じて履修する領域があるので、中学校における学習経験が生徒によって異なることを認識しておくことが大事である。これまでは、とすると画一的な内容を一律に指導することに重点が置かれがちであったが、今回の改訂によって、生徒の一人一人の学習内容の習熟の程度、興味・関心等に応じて、それぞれの生徒の特性を十分理解して指導する必要がある。

- [例1] 一斉指導の中に個別指導やグループ指導を取り入れる。

- [例2] 生徒が主体的に学習を進めるために、課題を設定させて取り組む学習指導を行う。

- [例3] 興味・関心、学習状況に応じた教材を工夫する。

- [例4] 個人差に応じた指導のためにも、

コンピュータ等の活用を図る。

- (3) 課題解決型の学習を重視した学習指導
昨今は家庭を取り巻く環境が著しく変化し、今後更に加速度的に変化していくことを考えて、家庭生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を学習させるとともに問題解決能力を身に付けさせることが重要なことである。さらに、社会の変化に主体的に対応するとともに、生涯学びつづける意欲と学び方の基本を学習させる必要がある。

したがって以前から家庭科で重視し、三科目に共通の内容である「ホームプロジェクトの実践と学校家庭クラブ活動」を家庭科の学習において一層充実を図ることが大切である。

- (4) 情報関連機器の活用

家庭科の学習指導にコンピュータを導入し、学習の意欲を喚起するとともに授業の効率化、活性化が図られるよう活用することが期待される。自分のペースで繰り返し学習できることや複雑な計算ができグラフ化ができる。また、シミュレーション・グラフィックスの活用などの長所を食物・住居・被服などの領域において効果的に活用し意欲ある学習になるよう指導することが望ましい。

5 高等学校「家庭科」男女必修の紹介

佐賀県立伊万里農林高等学校では、平成3年度から「家庭一般」男女必修授業を実施している。指導の先生は、「男女一緒に授業しても全然違和感はないし、人間として生きていくうえで必要な知識・技術を身につけるのに男女差はない」とのことです。



佐賀県立伊万里農林高等学校
「家庭一般」学習風景 調理実習

短期研修講座

受講者の声と講座風景

本年度実施予定124の講座も10月末までに111の講座が終了しました。ここで受講をされた多くの先生方の中から、4名の先生に“受講者の声”として、述べていただいた感想を紹介します。

研修を通して新しい自分を発見したい
～高校理科（生物）講座を受講して～

県立佐賀農業高等学校

教諭 大宅 利之

教職に就いて3年目で、まだまだ発展途上の身ですが、教育センター主催の講座には、普段の研修とは違った新しい発見があり、できるだけ多く参加したいと思っていました。今回の高校理科（生物）講座は2回目の参加で、内容は、おもに淡水魚類に関するものでした。初日、調査・採集方法から、その実際、及び分類と計測、溶酸素量の測定。2日目、水生生物と環境との関わりから、生体活動の計測法、Q10の測定など、他の先生方と共に、中身の濃い研修をさせていただきました。平成6年度からの新学習指導要領の中での、探究活動や、課題研修、あるいは、最近クローズアップされている、環境問題、環境教育の中に、今回勉強したことを、うまく取り入れることができるように、自分なりに工夫して行きたいと考えています。



淡水魚類の採集・調査

学校現場では、日々の忙しさに追われて、自らの探究心をもって行動しないと、なかなか新しいことを勉強していく機会を、多く見いだせないと思います。「このままじゃいけない。」と思いながら、いつも研修講座に参加するのですが、すぐにはその効

果というのは期待できないものです。とにかく、生徒（現場）のためにもですが、自分自身のために、新しい自分を発見できるように、これからもセンターの講座など、様々なものにチャレンジして行きたいと思いました。

研修講座の「お土産」
～小学校社会科講座を受講して～

東与賀町立東与賀小学校

教諭 坂井 満

社会科の授業をする度に、日々痛恨することがあります。「この学習展開で良いのだろうか。子供はこの時間で向上したのだろうか。他に有効な資料や方法はないのだろうか。他の先生方はどのような実践をされているのだろうか。」こう思う度に、社会科学習に対する自分自身の情報不足・力量不足を感じます。

こんな時は、専門誌の実践資料を読んだり、勤務校の先輩方に相談しています。しかし、思うような答えが見つからないこともあります。

このような私にとって、教育センターの講座は、無くてはならないものであり、年に一度の情報収集の場でもあります。

今回の小学校社会科講座は、中学年ならではの地域素材を生かした社会科の研究授業をはじめ、昨年一年間で取り組まれた先生方の新鮮な実践発表や、ともすれば敬遠しがちな理論講座などがあり、「お土産」が多い講座でありました。

また、指導案作製の演習では、県下の先生方との実践上の悩みや、希望などを話し合いながら指導案を作成し、明日からの授業に生かせる準備もできました。

特に研究授業では、文章で読んでもイメージがつかみにくい授業の雰囲気や、資料の提示方法、個別の助言など等を理解す

ることができました。

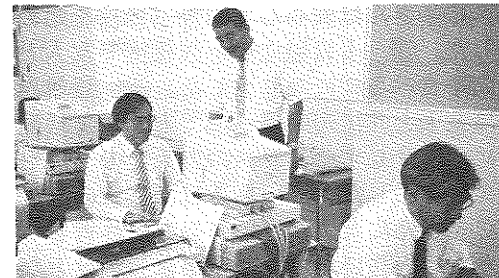
今後は、講座でいただいた先生方の貴重な「お土産」を生かし、より一層の社会科の活性化を目指して頑張ろうと思います。

研修講座を終えて
～高校商業科コボル講座を受講して～

県立佐賀商業高等学校

教諭 古賀 俊光

しばらく情報処理の授業担当から離れていた私は、日進月歩する情報処理教育に少しでもついていけるよう受講を希望しました。今、もう一度トライしていないと完全に情報処理教育についていけないだけでなく、昔勉強した事も忘れてしまうと思ったからです。ご存知の様に、1988年にJISコボルの再改訂が行われましたが、私自身、コボル85については全く無知に等しかったのです。



プログラム作成中の古賀先生

この5日間の研修では、主にコボル文法の応用的なプログラムの技法や構造化プログラミングを使用したファイルの更新処理について学びました。初日に、講義内容や実習問題がたくさん準備された冊子が配布されましたが、一見して全く知らない事ばかり。「ああ…とんでもない事になったなあ。」「講座についていけるかな?」等と不安と心配が私を襲ってきました。周囲の受講者は皆、専門的に勉強しておられ、何でもこい!という感じで、これが一層私を不安に陥れました。しかし、いざ始まってみると講義も温かな講師との問答形式をとられ、「なぜそうなるのだろうか?」と考えさせられる事が多く、また実習にしても、いろんな参考プログラムも用意してあり、なんとか研修をのりこえる事ができました。

振り返ってみれば、与えられるのを待つのではなく積極的に自ら学ぶ事の大切さを教えてもらったような気がします。

製作の喜びを満喫した三日間
～中学校技術科講座を受講して～

小城町立小城中学校

教諭 圓城寺 猛

現代社会は日進月歩で発展しています。特に、技術・家庭科は社会との重要な関連があり、ややもすると取り残されがちで、機会があればいろいろな研修会に参加するようにしています。



鳥栖工業高校での実習風景

今回の講座は電気領域の実践発表、実習題材を利用した指導計画、指導案の作成、電子部品（センサーなど）の原理と利用法、ソリッドステートリレースイッチの回路と製作及び試験ということで明日からの授業に即、役立つ内容だと思いました。

ソリッドステートリレースイッチの回路には、「サイリスター」「トライアック」「ダイアック」などの部品が使用されており、昨年、初めてこれらの名前を耳にした時は「何だろう?」「どんなはたらきをするのだろうか?」という疑問を抱きながら講義を聞き製作をしました。しかし、今年は違和感もなく講義や製作にスムーズに入っていました。現にこれらの部品は日常の電化製品の中に使用されており、それらの説明を聞き原理は理解できたのですが、「本当に作動するのだろうか?」という不安でいっぱいでした。製作物が完成し、作動した時の喜びは生徒たちが完成した時の喜びと同じように思えました。今後はこの講座で研修したことを生徒にどのように指導しているかと考えています。

教育相談Q & A 再登校へ向けて!!

～自立へのスタートを大切に～

Q かぜをきっかけに、一年近く登校拒否をしていたA子(小5)がやっと元気になり登校できる気配を見せてきました。でもなかなか登校できません。今後どのように指導していけばよいでしょうか。

A 登校拒否をしている子どもが再登校とう峠を乗り切る一つの「めやす」として、次の様なことが上げられると思います。

1. 神経症的なところが改善されてきた。
(偏食、指しゃぶり、抜毛、潔癖症等)
2. 心の傷や劣等感・挫折感が消失した。
① 対人関係(社会性)が回復する。
(友人に電話、友人と遊ぶ、親や担任の先生と話せる等)
- ② 活動的でエネルギーの盛り上がりが見えてきた。
(ジョギング、学校の事を話します。学習の準備をする。TVで学習番組を見出す)等です。

この様な兆しが現れてきた時を見計らって<1>登校刺激をはじめます。

それは、適切な対応によって精神的に強くなって再登校へのきっかけや方法を模索している時があるからです。機を見て、土曜の午後や日曜日など誰もいない学校内を一緒に散歩したり、数人の仲良しの友人と遊ぶのも良いことです。登校しそうな気配が強ければ、登校の話し合いをしたり、朝、担任や友人が迎えに行くことも効果があります。しかしあくまで子どもの自発的行動を援助するという考え方で接します。

<2> 学校での居場所をつくります。

それは、集団の場面に急にとけこむことが無理な場合があるからです。まず、どこまでいけそうか、子どもの気持ちを大切に、安心して居場所(保健室・図書室等)を確保してやります。

<3> 変則登校も認めてやります。

久しぶりに登校する子どもは不安でいっ

ぱいなのです。おくれて登校したり、短時間しか学校に居れなかったりすることがありますが、まず登校できたことを認め、喜んであげましょう。わがままだと言って叱ったために再び登校拒否に入る子どもがいるからです。

<4> 子どもに合ったスモールステップを組みます。

ある小学校のC子さんの事例を紹介しましょう。

本を読むことが大好きなC子さんは再登校の居場所を図書室に決めました。

① 好きな本を読んだり、司書の先生のお手伝いをしたりしてだんだん元気になりました。② 図書準備室に、机椅子も用意され、C子さんは安心して図書室登校を始めました。③ 十日程立つと図書室で友人と給食を食べる様になりました。④ 昼休みには友人と共に運動場へ出て遊ぶなど活動的になり少しずつクラスの友人との交流も増えてきました。⑤ ある日、体育の好きなC子さんに友人が「いっしょに体育をしようよ」と誘いかけたことがきっかけとなり授業に参加できました。⑥ 自信がついたC子さんは、図工、音楽、家庭、書写、学級会等と授業に出かける教科の数が次第に増えてきました。

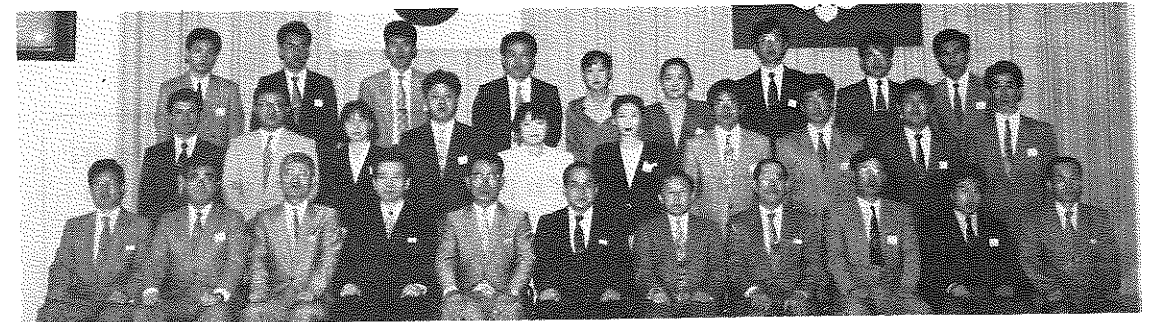
このようにして、C子さんは、日に日に元気をとりもどし、二ヵ月もたつと完全に学級に復帰できました。

担任の先生はC子さんが再登校できてからも家庭との連携を密にし、家族を支え、家族みんなも担任の先生の助言を生かしてC子さんを援助し続けました。

<5> 校内の連携が大切です。

やっとの思いで再登校できた子どもにとって他の子どもたちの心ないひと言や、先生方の足並の乱れによって再び挫折することがあります。それは先生方の共通理解で防ぐことができます。校内の事例研究会を開いて、理解と協力を深めたいものです。

平成4年度 長期研修生紹介



「入所式」後の記念撮影

氏 名	所 属 校	研 修 領 域	研 究 主 題
富 永 幸 広	北 茂 安 小 学 校	小 学 校 社 会	身近な歴史的・地域素材の教材化と指導法の研究
牟 田 誠	田 代 〃	〃 算 数	学習効果を高め活発な活動を促すグループ学習の研究
増 本 博 宣	平 原 〃	〃 〃	「算数のよさ」を味わわせる練り合い活動の研究
前 田 弥 三	山 代 西 〃	〃 理 科	問題解決の意欲を高める理科学習指導の研究
霜 村 満	塩 田 〃	〃 〃	児童の科学的な見方や考え方を育てる学習指導の研究
尼 寺 広 樹	三 瀬 〃	〃 道 徳	再現構成法を取り入れた少人数学級の道徳授業の工夫
南 里 信 幸	本 庄 〃	〃 特 別 活 動	自主的態度を育てる学級活動指導法の研究
鈴 山 幸 代	神 野 〃	〃 教 育 相 談	保健室に来室する子どもとのよりよいかわりを求めて
高 上 恵 子	多 良 〃	〃 〃	問題行動に対する教育相談の実践的研究
竹 内 智 道	橘 〃	〃 C A I	地域の古いものさがしを支援するソフトウェアの開発
井 手 ゆ ず ら	大 和 中 学 校	中 学 校 国 語	言葉の力の形成過程をふまえた文法指導法の工夫
廣 田 弘 一 郎	大 浦 〃	〃 数 学	自ら学ぶ意欲を高める数学科指導法の研究
古 川 昌 高	川 副 〃	〃 理 科	教材の有効性に着目した「珪藻の教材化のための研究」
斎 藤 孝 夫	鍋 島 〃	〃 C A I	地球の自転や公転における星座の見え方のソフトの開発
井 手 博 司	第 五 〃	〃 〃	「進化の学習」を支援するソフトウェアの開発
古 川 敦 秀	山 代 〃	〃 〃	色彩感覚を養うことを支援するソフトウェアの開発
宮 崎 久 子	唐 津 工 業 高 等 学 校	高 等 学 校 国 語	小説教材における「読み」の指導法の研究
朝 日 佐 代 子	盲 学 校	県 立 学 校 理 科	視覚障害者に対する生物分野の観察・実験に関する研究
北 島 勝 則	三 養 基 高 等 学 校	高 等 学 校 〃	力学・電磁気分野における実験法の開発と工夫
白 武 博 義	伊 万 里 農 林 〃	〃 教 育 相 談	青年期の生徒・親に対する教育相談の実践的研究
江 副 文 敏	唐 津 商 業 〃	情 報 処 理 (商 業)	プログラム言語学習および「総合実践」の教材作成
進 藤 金 道	嬉 野 商 業 〃	〃 〃	プログラム言語学習及び総合実践・情報処理の教材作成
池 田 勝	佐 賀 商 業 〃	〃 〃	コボル言語学習および「進路情報システム」の作成
富 村 進	伊 万 里 商 業 〃	〃 〃	プログラム言語学習および「課題研究」の教材作成

指導資料ガイド

「教育工学」「情報処理」「CAI」関係の資料を紹介します。当教育センター資料室で御利用ください。

分類番号 B1 - 04

[受付番号]

○県内高等学校におけるパソコン・ワープロ利用実態調査の報告	静岡県立情報処理教育センター	91-490
○パソコン通信システム (SEIUM)	"	"
○グラフィックデータの有効利用	"	"
○パソコンを利用した生徒名簿作成の実践例	"	"
○パソコン通信コースの開設にあたって	三河情報処理教育センター	91-496
○ミカワCAIシステムVER. 3	"	"
○福井県教育情報ネットワークの構築に関する研究	福井県教育研究所	91-497
○教育機器の効果的な活用及び授業への導入	寝屋川市教育研修センター	92-15
○学校におけるパーソナルコンピュータの効果的利用に関する研究	宮崎市教育研究センター	92-16
○福岡県教育センターソフトウェアライブラリー利用の手引	福岡県教育センター	92-19
○情報活用能力を育成するためのパソコン活用のあり方 (学校経営)	宮崎県教育研修センター	92-25
○学校におけるパソコンの活用に関する調査研究 (教材用パソコンソフトの開発)	"	"
○MS-WINDOWSと表計算	尾張情報処理教育センター	92-36
○データベースの教材研究 (カード型データベースソフトウェアを利用して)	"	"
○コンピュータ導入及びその利用についての研究	姫路市立教育研究所	92-44
○パーソナルコンピュータ等利用状況調査の回答集計結果とその分析	横浜市情報処理教育センター	92-53
○授業におけるコンピュータの効果的な活用に関する研究	福島県教育センター	92-55
○教育情報ネットワーク実施のための実践的研究	兵庫県立教育研究所	92-71
○教師のための教育情報データベースの構築	島根県立松江教育センター	92-73
○学校におけるコンピュータの活用例	"	92-74

回									
覧									

発行 佐賀県教育センター
〒840-02 佐賀郡大和町大字川上字西山
(TEL) 0952-62-5211
(FAX) 0952-62-6404